

二人は、くー

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止



登場人物

女 1 篝（かがり）。甲賀くノ一。18歳。

勝気で小生意気な性格。調子に乗りやすいが、意外と打たれ弱い。
気を抜くとすぐタメ口になる。

女 2 深雪（みゆき）。伊賀くノ一。19歳。

物腰が柔らかく、口調も仕草も丁寧。しかし、見た目に反して負
けん気が強く、Sっ気がある。

語 1 物語の語り部。女1が担当（声音は同じ、ナレーション口調）。

語 2 物語の語り部。女2が担当（声音は同じ、ナレーション口調）。

へ上 出合い 体験版へ

(1)

激しい雨が降っている。

(女1..背後30cm、女2..正面30cm)

語1 それは昔、戦乱の世――。敵国の密偵に出ていた甲賀のくノ一

「箒」は、極秘の情報を里へと持ち帰る途中、突然降りだした

豪雨に止むなく山中の小屋へと避難することになりました。と

ころが偶然にも、そこで伊賀のくノ一「深雪」と出くわしてし

まいます。

女1が、小屋の引き戸をあける。

女2
きやつ!?

語1
篝が戸を開けると、中には、白い肌に長い黒髪くろかみを垂たらした全裸の女性が立っていました。彼女はキレイなお尻をこちらに向け、濡れた衣ころもを小屋の梁はりに干しているところでした。

女1
あつ、ごめんなさい。人がいると思わなくて……。

女2
いえ、こちらこそ……。雨避けあまよにいらしたんですね？ どうぞ上がってください。

女1
いいんですか？

女2
はい。私も勝手にお邪魔している身ですから、どうぞ、ご遠慮なく。

女1
そうですか。それじゃあ遠慮なく。

女1は中に入り、戸を閉める。

(女1..右耳10cm、女2..左耳10cm)

語2 こうして篝かがりと見ず知らずの女性は、同じ屋根の下で一晩ひとばんを過ごすことになりました。玄関の戸を閉めた篝は、戸口とぐちで濡れた服を脱ぎ始めます。

女2 とんだ災難さいなんでしたね。お体からだは大丈夫ですか？

女1 ええ、なんとか。でも、寒くて死ぬかと思いました。

女2 それは、ご無事でなによりです。あ、脱ぐのをお手伝いますよ？

女1 あっ、すみません。なんか……っ、袖そでが引っ付いちやっ……。

濡れた服が張り付いて脱げない女1。

女2が女1の左耳側をまわって背後に移動する。

(女2 .. 左耳10cmから背後10cmに移動)

女2 ああ、無理に引つ張ると破れやぶちやいますよ。

(女1 .. 右耳10cmから正面10cmに移動)

語1 そう言って女性は静かに歩み寄ると、着物の袖そでと襟えりをつかんで
内側に空気を送り込んでいきます。

(女1 .. 正面10cm、女2 .. 背後10cm)

女2 どうですか？

女1 ん、しょ。。。つと、ありがとう。助かったよ。

女 2

いえいえ、着物はその梁はりに掛かけておきますから、どうぞ他も脱いじやってください。

女 1

うん、ありがとね。

語 2

そうして女性が着物を干している間、篝かがりは胸のサラシをほどき、股間のフンドシも脱いで生まれたままの姿へと戻りました。

あまみず

雨水を吸って、重く、冷たくなった下着から解放された心地よさと、素肌すはだを撫なでる冷たい風の感触に、思わず股の間が「ぞくり」と震えます。……と、不意に女性が背後はいごから抱きしめてきました。

(2)

(女1 .. 右耳 0 c m、女2 .. 左耳 0 c m)

女1 ひゃっ、なに!?

女2 ごめんなさい。驚かせちゃいましたか？

女1 う、ううん。ちよつとビックリしただけ。。。 (困惑) な、なに

。。。？

女2 いえ、なんだか寒そうに見えたもので、つい。。。。

女1 そ、そう。。。ありがとう、あったかいよ。

女2 そうですか、それは良かったです。

女1 が安堵するのを待ち、不意に耳元でささやく。

(女1…右耳ささやき、女2…左耳ささやき)

女2 それじゃあ、もっと温めてあげますね。

そう言つて女2は、女1の体をまさぐり始める。

女2 お腹に指で、円を描く^{えが}ように…：…さわさわ…：…すりすり…：…

女1 んっ…：…んふう…：…あ、ちよっ…：…と、うん…：…んんっ…：…

女2 柔らかなお肌ですね…：…。お餅^{もち}のようにモチモチで…：…しつとりと指に吸い付いてきます。

女1 んふう…：…んっ、はあ、ふうん…：…はあ…：…んふう…：…はあ…：…
…：…。

女2 ふふっ、気持ちいいですか？ お腹の冷えは^{たいてき}大敵ですからね。

しっかり温めておかないと……。

女 1 あう、んふう……んう……。ちよつと……。ああつ……。だめえ、

なんか……変な感じ……。んっ……。んふう……。ああ……。はあ、あ

ん……。。

女 2 ほうら、お臍へその下も……。女の子の大事なところ……。優しく撫

でてあげますよ。さわさわ……。なでなで……。

女 1 ああ……。んふう……。んう、ちよつと……。ああ、そこ、は……

ああ、だめだつて……。あ、ああん……。ああつ……。ああ……。

女 2 どうですか？ アソコもあたた温まってきましたか？ では、こちら

も温めてあげますね？

女 2 は、女 1 の耳の中に舌を入れて舐め始める。

女 2 れる、れる……れる、れる……ちゅぷ、ちゅ、ちゅう……ん

ふっ、れるれる……れむっ、ちゅ、ちゅぱっ……。

女 1 あんっ……やだっ、んんっ……んっ、んう……ああ、あん、だ

めえ……そんな……あ、耳のなか……舐めちや……はんう……。

女 2 ちゅむっ、ちゅぱ、ちゅう……。そんなこと言っ……いやら

しい吐息といきが漏もれてますよ？

女 1 はあ、んっ……んふう……もう、やめて……んんっ、あ、ああ

っ……んっ、んんう……ああっ……あん、すごい……。

女 2 はあむ、れる、れる……ちゅぱ、ちゅ……ちゆるる……ふふっ、

背筋も栗立あわだってます……。あむ、ちゅぱっ、れる、れる……ち

ゆぱ、ちゅむ、ちゅう……なにかイヤらしいことでも考えてる
んですか？

女
1

ちがつ、う……違うのに……耳のなか、舐めまわされたら……

あんう、んっ、んうう……。なんで、こんなに……感じちゃう

の……！ ああっ、あっ、はあ……あ、あっ、ああ……ああ、

ああ……。

一通り舐め終え、女2は満足げに目を細めて唇を離す。

女
2

ふふっ、モジモジしちゃって可愛いですね。耳のなか舐めまわ

されて、興奮しちゃいましたか？

女
1

はあ……あ、はあ……っ、ん……んう……ああ……んふう……。

女 2

お腹もすっかり温まってきましたし、次はどこを触って欲しい
ですか？ 上の御山おやまですか？ それとも、下の谷間たにまがいいです
か？

女 2 は左手で乳房を、右手で陰毛を撫で始める。

女 1

ほう、んんう……！？

女 2

私としては、この生意気なまいきそうなオツパイを、じくつくり甚振いたぶつ

女 1

てあげたいんですけど。ふふっ、口が滑すべっちゃいましたね。
ああ……あ、ああん……だめ、あ……あんう……そこ、は……
んふっ、んっ……んんう……もう……ああ……あん……。

語 2

深雪みゆきのなすがままに弄もてあそばれるかがり簞かがり。背後から胸を揉まれ、反対の手では股間を優しく撫でられて、たまらず身じろぎしながら「か細い」悲鳴をもらしています。――と思われた次の瞬間、彼女はストンと深雪の腕からすり抜け、瞬まばたき一ひとつする間まもなく背後に回り込みました。

(3)

(女 1 .. 右耳ささやき、女 2 .. 左耳ささやき)

女 2 きやつ!?

女 1 ふふっ、あんまり調子にのらないでよね？

女 2 あん……いつの間に……。

女 1 今度はこっちの番だよ。

女1は囁き、仕返しとばかりに耳の中を舐めまわす。

女1 あうむ、ちゅう、ちゅむ……れるれる、れる……ちゅ、ちゅつ。

女2 んんっ、んっ、ああ……あん……もう、やっ……あっ、んんう。

女1 んふっ、さっきの仕返ししかえ。

女2 あんっ……。ちよつと、どこ触さわってるんですか!?

女1 れる、れる、れる……どこって、あなたのオツパイだよ?

ほうら、もみもみ……。

女2 あんっ、だめ……あ、あんう……。あっ、んう……んうう……

あっ、ああん……。

女1 耳の中もいっぱいレロレロしてあげる。あうむ、ちゅく、ちゅ

……れる、れる、れる……（舐めながら）こりこりしてて、な

んか可愛い……。

女 2 んんっ、だめえ……ああっ、あ……んんう……あ、ああん……。

女 1 それにほら……オツパイの先っぽもビンビンに膨ふくらんでる

よ？ 私の背中に押し付けてる時から勃たつてたもんね？

女 2 やあ……っ、あっ……ああっ、あんう……んっ、んんう……。

女 1 ふふっ、もうすっかり汗ばんできたね？ 吐息しめも湿しめっぽいし……

……。さては、こっちも触ふって欲しいのかな？

言いながら、女1は女2の陰部に手を伸ばす。

しかし、女2はその手を阻さまたんだ。

(女1…右耳0cm、女2…左耳0cm)

女2 (吐息) んふう…、それもいいですけど…。そろそろ、お

布団ふとんに行きませんか？

女1 お布団ふとん？

女2 ええ。ほら、そこに…。汗もかいてきましたし、冷える前に
どうですか？ もちろん、ご一緒に。

女1 ふふっ、いいよ。じゃあ、続きは布団の中でだね。

女2 はい♥ お手てやわ柔らかに。

女1 その生意気な口も直すぐに塞ふさいであげる。…でも、その前に名
前おし教えて？

女2 ああ、そうですね。申し遅れました、私は深雪みゆき。深い雪ふかゆきと書いて
「みゆき」です。

女1 そうなんだ。なんか、ぴったりな名前だね。

女2 そうですか？

女1 うん。だって私が篝かがりだもの。かがり火びの篝かがり。

女1はクスリと笑い、女2も妖艶な笑みを浮かべる。

(女1..右耳ささやき、女2..左耳ささやき)

女1 雪だとすぐに溶とけちゃうね？

女2 うふっ、そうですね。…でも、快楽かいらくに蕩とろけちゃうのは、きつ

と篝の方だと思えますよ？

女1 違うよ。深雪が泣いて許ゆるしを乞こうまでイキ果はてるの。

女 1 ふふふ。

女 2 うふふ。

語 1 こうして篝と深雪は、寒さを凌ぐしのため同じ布団へともぐり込み

ました。お互い相手の素性すじょうは知りませんが、くノ一の嗅覚きゅうかくが目の前の女を敵だと告つげています。

武器もなく、逃げ場もない山中さんちゅうの山小屋やまごや。あるのは一糸いっしまとわぬ己おのれの身みただ一つ。

女 1 だったら……。

女 2 でしたら……。

語 2 二人は横になって見つめ合うと、くノ一の淫術いんじゆつでもって相手を墮おとしにかかったのです。



制作..d a r v e

イラスト/星埜いろ